JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	生物多様性と文化多様性の相互作用：野生生物と社会をつなぐ「文化」を考える
Author(s)	敷田，麻実；湯元，貴和
Citation	第19回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集：39-39
Issue Date	2013-11-28
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16904
Rights	Copyright (C) 2013 「野生生物と社会」学会．敷田麻実，湯本貴和，第19回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集，2013，p.39．
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

TS3

生物多様性と文化多様性の相互作用：
野生生物と社会をつなぐ「文化」を考える

企画者：敷田麻実(北海道大学)
湯本貴和(京都大学)

1. 趣旨

自然環境の保全や生物多様性の維持が社会的課題となり、多くの賛同を得られるようになっている一方、私たちの社会が自然環境保全や生物多様性とどう関わるかという「関係性」の問題は十分考察されてこなかった。そして、社会と野生生物の関係も、野生生物保護か利用かという二者択一で思考されてきた。

野生生物が豊かな農山漁村や都市周辺地域、つまり非都市部は、野生生物の利用あるいは保護、また獣害から生活を守る生態学的実践の場であり、逆に都市部は、野生生物と直接対峙しないために、客観的に野生生物を研究や観察し、また野生生物の存在を生態系サービスとしてイメージや観光資源によって文化的に利用する場として分離されてきた。私たちは、自然環境保全や生物多様性維持を進める農山漁村や都市周辺地域と、生態系サービスを享受し、環境に配慮しつつも快適な都市生活を享受する、経済や文化活動の中心としての都市部という、2つの世界の「乖離」や「対立」に直面している。

しかし野生生物保護をはじめとする自然環境保全や生物多様性の維持は、自然環境に恵まれた農山漁村や都市周辺地域だけの問題ではなく、社会的な課題として共有しなければ解決できない課題である。こうした非都市部に一方的に実践を任せ、都市部では文化的な消費を充実させることは持続可能ではない。

そこで、このセッションでは、利用や維持活動も含めた自然環境と社会との「かかわり」が文化の源とした上で、都市部における生態系サービスの高度利用による現代文化や経済活動も評価しながら、生物多様性と文化多様性の相互作用に着目し、「生物文化多様性」や「生物文化相互作用系」という新たな視点で、野生生物と社会の新たな関係を提案する。

2. 講演者と講演タイトル

- 敷田麻実(北海道大学)
  「生物文化多様性：生物多様性と文化多様性の相互作用から資源管理へのヒント」
- 湯本貴和（京都大学）
  「地球環境問題のなかの生物多様性」
- 吉田正人（筑波大学）
  「世界遺産関連条約における生物多様性と文化多様性」
- 深町加津枝(京都大学)
  「京都の森林利用にみる生物・文化多様性」
- 新広昭（石川県）
  「生物多様性に依拠した文化生成の多様性モデルの提案」